

## 高等学校の新学習指導要領解説書における「新聞」関連記述(抜粋)

この資料は、新学習指導要領（平成30年3月告示）解説（同年7月）から、「新聞」「報道」「論説」「ニュース」などの記述を抜き出したものです。「新聞」以外の語句については、新聞との関連性を勘案して抽出しています。

### 【外国語科】

## 第2章 外国語科の各科目

### 第2節 英語コミュニケーションⅠ

#### 2 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに  
関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ここでは、本科目において身に付けるべき資質・能力の柱の一つとして、「思考力、判断力、表現力等」の内容を示している。(略)

高等学校では、外国語で、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養うことが求められている。そのために、「具体的な課題等」の解決に向けた、英語を用いた言語活動の中で、「論理的に適切な英語で表現すること」を通して、以下のアからウの3点を身に付けることができるよう整理した。

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりすること。

この事項では、英語使用の受容面と発信面の両方に焦点を当てている。中学校では、「日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること」としており、身の回りのことや各種メディアから得られる社会情報などについて、英語で聞いたり読んだりした際に、その内容を的確に理解できる能力の育成を図っている。

高等学校では、中学校で「英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える」能力を育成することを踏まえ、聞いたり読んだりした情報の中から概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを判断しながら的確に捉えたり、聞いたり読んだりして得た情報や考えなどについての自分自身の考えをまとめたりする能力を育成することについて述べている。

情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり，自分の考えをまとめたりすることとは，目的や場面，状況などに応じ，何を聞き取ったり読み取ったりしなければならないかを判断し，それに基づいて概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり，聞いたり読んだりして得た情報を整理したり，吟味したり，既にもっている知識と照らし合わせて関連付けたりしながら，自分の考えをまとめたりすることを意味している。ここでは，単に内容を理解するために聞いたり読んだりすることにとどまることなく，受信と発信とを統合させた言語活動が求められていることに留意する必要がある。(略)

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

##### ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について，基本的な語句や文での言い換えや，書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら，電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り，書き手の意図を把握する活動。また，読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(略) この活動で読み取るのは，電子メールやパンフレットなどにおける情報である。電子メールでは，差出人，受取人，日付，件名，本文などの電子メールの基本的な構成については中学校の外国語科で既に学習しているが，送る相手や目的などに応じて英文の表現形式が異なることなどに留意させる。また，パンフレットには，紹介や宣伝などを意図した英文が掲載されているが，写真や図表などを伴うものが多いため，例えば，旅行案内や商品の**広告**などを扱うことが考えられる。また，ここでは必ずしも電子メールやパンフレットの形ではなくても，必要な情報を伝えるために書かれた英文を扱うことも考えられる。

実際の活動においては，読む前，読んでいる間，読んだ後に前述のような支援を適宜行いながら，適切な活動を展開するようにする。例えば，読む前に，写真や実物などを活用して，これから読む内容と関連のある話題について話すことにより，これから読む内容を推測させたり，読む目的に応じて，どのようなことに気を付けて読むのかを示し，生徒の理解を助けたりすることが考えられる。(略)

#### ② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり，例えば，次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から，五つの領域別の目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ，有機的に組み合わせ活用するようにする。

ここでは，言語活動を行う際の参考として，言語の使用場面や言語の働きの具体例を示している。これは，言語活動を行うに当たり，言語の使用場面の設定や，言語の働きを意識した指導において手掛かりとなるよう考慮したものである。

言語の使用場面については、小学校及び中学校では、使用場面の主となる「児童生徒の身近な暮らしに関わる場面」を示した後に「特有の表現がよく使われる場面」を取り上げている。高等学校では、中学校の「生徒の身近な暮らしに関わる場面」を広げた「生徒の暮らしに関わる場面」、「多様な手段を通して情報などを得る場面」及び「特有の表現がよく使われる場面」の三つに分けて示した。

言語の働きについては、小学校及び中学校における分類との対応関係を分かりやすくするために整理をして、一部に高度化を図り、「コミュニケーションを円滑にする」、「気持ちを伝える」、「事実・情報を伝える」、「考えや意図を伝える」及び「相手の行動を促す」の五つに整理し、それぞれ代表的な例を示した。

有機的に組み合わせ活用するとは、取り上げた言語の使用場面において果たされる言語の働きや、取り上げた言語の働きが生じる言語の使用場面を選択して組み合わせることを意味している。コミュニケーションにおいて言語は、具体的な場面で、具体的な働きを果たすために使用されるのであり、コミュニケーション能力の育成を図るためには、言語の使用場面と働きを明らかにし、具体的な文脈を想定した上で指導に当たることが重要である。

学習する語や表現、文法事項の中には、特定の場面や言語の働きと密接に結び付いたり、特定の題材やテーマについてコミュニケーションを進める上で重要であったりするものが多い。文法項目や文構造の取扱いについては、それらが具体的な言語の使用場面でのどのような働きをするのかを併せて例示し、実際の場面で活用できるよう指導する必要がある。

なお、本科目の学習の初期の段階において言語活動を行う際には、中学校で学習した身近な言語の使用場面や言語の働きを取り上げることで、高等学校における外国語学習の円滑な導入を図ることが重要である。

#### ア 言語の使用場面の例

##### (イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面

- ・ 本，新聞，雑誌などを読むこと
- ・ テレビや映画，動画，ラジオなどを観たり，聞いたりすること
- ・ 情報通信ネットワークを活用すること など

ここでは、様々な**メディア**を通して英語で情報などを得る場面を想定している。

特に今後のグローバルな情報網の広がりにより、情報収集の方法は一層多様になることが考えられる。本，**新聞**，雑誌などを読むことはもちろんだが、動画やSNS，インターネットによるラジオなどの情報通信ネットワークを活用した情報のやり取りや情報検索の機会は今後も一層増えることが予想されることから、指導に当たりそれらの場面を取り扱っていく必要がある。

### 第3節 英語コミュニケーションⅡ

#### 2 内容

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ① 言語活動に関する事項

##### ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(略) この活動で読み取るのは、**新聞記事**や**広告**などである。ここでの**新聞記事**では、実際に起こったことなどの事実の説明や、問題に関する意見などが扱われていることや、**広告**では、商品や店舗の宣伝や、行事の開催の告知などが扱われていることが想定される。

実際の活動においては、読む前、読んでいる間、読んだ後に、前述のような支援を適宜行いながら、適切な活動を展開する。例えば、**新聞記事**や**広告**の内容を読み取らせる前に、見出しや、それぞれの媒体で用いられる特有の表現に注目させ、書かれた目的を踏まえた読み取り方を指導することが考えられる。実際に読む際には、網羅的に読み取るのではなく、必要な情報や考えを who, what, when, where などに答える形で探し出すといった読み方を指導することも考えられる。

読み取った内容を基に考えをまとめるとは、読み取った情報を整理し、その内容を踏まえて、自分の考えなどをまとめることである。これは、「英語コミュニケーションⅠ」における読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動を発展させたものであり、ここでは読み取った情報そのものを伝え合うのではないことに注意する必要がある。(略)

##### ②言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

### 第4節 英語コミュニケーションⅢ

#### 2 内容

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ① 言語活動に関する事項

##### イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、インタビューやニュースなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) この活動で聞き取るのは、インタビューや**ニュース**などである。インタビューは

2人以上の話者による会話で、情報を得るために一方が様々な質問をして、他方がそれに答える形式で行われる。教師とALTによるインタビューを実際にその場で聞いたり、音声や映像によってインタビューを聞いたりすることが考えられる。

**ニュース**とは、日常的な様々な話題について、ラジオ番組やテレビ番組、インターネットなどを想定して聞くことが考えられる。題材の選択に当たっては、生徒の実態に応じて番組の内容や話される速さや用いられる表現などの英語のレベルに配慮する必要がある。

ここでは、聞いて終わりにするのではなく、聞き取った内容について、ここでの質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動につなげるよう指導する。質疑応答は、実際の話し手との間で行われるものだけではなく、聞き取った内容について理解を確認するために、聞き手である生徒同士で行うことも考えられる。聞き取る内容の理解だけにとどめるのではなく、理解した上で、それらについてどう考えるのか、自分の意見や感想を話したり書いたりして伝え合うことが大切である。(略)

(イ) 社会的な話題について、複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) この活動で聞き取るのは、**ニュース**や講演などである。**ニュース**については**2の(3)のイの(7)**に準ずるが、ここでは社会的な話題に関する**ニュース**を聞くので、時事的な話題が取り上げられることが多いと考えられる。(略)

また、ここでは複数の**ニュース**や講演などとしているが、これは、以下に述べる**2の(3)のエ～カの(イ)**における「聞いたり読んだり」するための資料として扱われることを想定し、それらの資料を多角的な視点から分析する観点から、複数の題材を聞き取る場合があることを示している。ある事柄に対して複数の視点から話された**ニュース**や講演などを、それぞれの論点の違いを整理しながら内容を把握する活動などが考えられる。

実際の展開については、**2の(3)のイの(7)**を参考にする。

## ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) この活動で読み取る英語は、**新聞記事**や物語などである。**新聞記事**については、「**英語コミュニケーションⅡ**」の**2の(3)のウの(7)**に準ずる。(略)

ここでは、読んで終わりにするのではなく、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動につなげるよう指導する。ここでの質疑応答は、読み取った内容について理解を確認するために、読み手である生徒同士で行う形態も含まれる。読み取る内容の理解だけにとどめるのではなく、それらを理解した上で、それらについての自分の意見や感想を話したり書いたりして伝え合うことが大切である。(略)

## エ 話すこと [やり取り]

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) この活動で聞いたり読んだりする**ニュース**や講演などについては、**2の(3)のイの(イ)**に準ずる。

情報や考え、課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動については、課題を解決するために、ペアやグループなどで一定の結論を導くために話し合う活動などが考えられる。その際、それぞれの意見の共通点や相違点を確認し、それらの理由や根拠について比較、検討しながらグループの意見をまとめるなど、複雑な過程を伴うことが多い。そのため、生徒の実態に応じて、役割や形式を決めた話し合いから始めるなどの段階的な指導が必要である。(略)

## オ 話すこと [発表]

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) この活動で聞いたり読んだりする**ニュース**や講演などについては、**2の(3)のイの(イ)**に準ずる。

ここでの社会的な話題についての発表では、課題研究で取り組んだ内容などを公的な場で行うことなども想定し、適切な発表の形態や内容の構成の仕方、使用する語彙や表現等の言語材料などについて、モデルとなる発表例を提示しながら指導することが考えられる。(略)

## カ 書くこと

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) この活動で聞いたり読んだりする**ニュース**や講演などについては、**2の(3)のイの(イ)**に準ずる。

ここでは、「英語コミュニケーションⅡ」における活動に加え、自分自身の立場を明らかにしながら伝える活動を例示している。例えば、ある主張に対する賛否などの立場を明示した上で、その理由や根拠について明確に述べる活動である。そのためには、**ニュース**や講演などを聞いたり読んだりして考えを整理するために、要点をまとめたり、内容についてペアで話したりする活動をさせた上で、自分はどちらの立場を取るかについて判断する

などの活動が考えられる。(略)

## ② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

## 第5節 論理・表現Ⅰ

### 2 内容

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

## 第6節 論理・表現Ⅱ

### 2 内容

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

## 第7節 論理・表現Ⅲ

### 1 目標

#### (1) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。

(略) ここでは、課題の解決に向けて多様な視点から情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う必要があることから、海外のニュース、新聞や雑誌などの記事などの多様なメディアから収集した複数の資料を活用して自分の考えなどをまとめることを示している。

課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うとは、「論理・表現Ⅱ」における、自分が身近に入手できる情報を基に相手とやり取りをする交渉から、より複雑な問題の解決のために、複数の資料から得られる情報を活用しながら、やり取りをすることができるようになることを意味している。

ここでは、ある日常的な話題について、まず何が問題になっているのかを説明し、関連する詳細な情報などを提供した上で、問題の解決に向けたやり取りを行うことが考えられ

る。ここでの課題の解決とは、実際に身の回りで起こっているトラブルなどから、学校や地域における問題解決までのやり取りを含み、それらにおいて一定の合意に至ることができるようになることを示している。

例えば、海外から高校生が来校する際の歓迎行事を決めるために、その国についての情報や、海外で人気のある日本文化などについて、インターネットで調べるなどして行事の計画を立てる活動などが考えられる。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(略) 複数の資料を活用することについては、**1の(1)のア**に準ずる。(略)

## (2) 話すこと [発表]

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(略) 複数の資料を活用することについては、**1の(1)のア**に準ずる。(略)

## 2 内容

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

##### イ 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) 情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする活動については、「論理・表現Ⅱ」の2の(3)のイの(ア)を発展させて行う。

必要な情報を探し出すための資料として、**ニュース**や**新聞記事**のほか、インターネットの情報や学術的な文献なども考えられる。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、質疑応答をしたり、聞き手を説得することができるよう、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、意見や主張、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした



内容を踏まえて、自分自身の考えなどを、整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用する際には、ニュースや新聞記事のほか、インターネットの情報や学術的な文献なども考えられる。得た情報に関しては、その情報が信頼できるものかどうか、その情報を根拠として挙げるのが目的に合致しているかなどについて考慮し、必要に応じて出典や発信元を示すことも必要である。(略)

#### ウ 話すこと〔発表〕

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、段階的な手順を踏みながら、聞き手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用することについては、2の(3)のイの(イ)に準ずる。(略)

#### エ 書くこと

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、読み手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 読み手を説得することができるようとは、読み手が納得したり、共感したり、同意したり、更に深く考えたりするように、自分の意見や主張を文章にまとめることができることを意味する。そのために、聞いたり読んだりしたことから得た事実や情報とともに、調査や観察などで得られた資料などを活用しながら、それらを主張や意見を支える根拠として効果的に使用する。その際、必要な情報を収集する方法や、得た情報から主張や意見などの根拠として適当なものを選択する力を身に付けさせることが大事である。また、自分の意見を、得られた情報や事実と区別して書くことを指導することも大切である。

ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用することについては2の(3)のイの(イ)を準ずるが、主張を述べる論証文のような文章では、より説得力のある文章にするために、主張を支える根拠として情報を効果的に引用することが大切である。情報の引用に関しては、直接的に情報の原文から引用したり、パラフレーズのように原文の言い換えをしたりするなど、自分の文章の文脈や内容に応じて行う。情報の引用や言い換えに関しては、直接的に引用する場合は出典を明示すること、言い換えを行う場合には、原文の趣旨から逸脱しないように気を付けることなどを指導することが必要である。

#### ② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

## 【英語科】

### 第2章 英語科の各科目

#### 第2節 総合英語Ⅰ

##### 2 内容

〔思考力, 判断力, 表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し, 英語で表現したり, 伝え合ったりすることに  
関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に示す事項について, 五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に準ずる。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

#### 第3節 総合英語Ⅱ

##### 2 内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について, 新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り, 文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また, 読み取った内容を基に考えをまとめ, 話したり書いたりして伝え合う活動。

この事項については、「英語コミュニケーションⅡ」の2の(3)のウの(ア)を参照した上で, 専門科目としてふさわしい内容を取り扱う。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

## 第4節 総合英語Ⅲ

### 1 目標

#### (1) 聞くこと

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、幅広い視点から、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

この目標は、「総合英語Ⅱ」の1の(1)のイ「(略)」を発展させたものである。

話の展開に注意しながらとは、ここで聞き取る英語が、量も多く、内容も複雑になっていることが考えられることから、話がどのように展開するのかについて一層注意しながら聞き取る必要があることを示している。

幅広い視点を捉えるとは、話の概要を把握し、話し手の意図が何であるかを判断した上で、多様な観点から、取り上げられた話題について捉えることである。したがって本科目では、一つの話題について、複数のニュースや講演などから、複数の視点を整理、比較するなどして全体の概要や要点、詳細を捉え、話し手が伝えたい最も重要な情報を把握することができるようになることが求められる。(略)

### 2 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

#### (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに 関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に準ずる。

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ① 言語活動に関する事項

##### イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、インタビューやニュースなどから必要な情報を正確に聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 実際の活動については、「英語コミュニケーションⅢ」の2の(3)のイの(ア)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

(イ) 社会的な話題について、複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、複数の視点を整理、比較して、概要や要点、詳細を把握する活

動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 実際の活動については、「英語コミュニケーションⅢ」の2の(3)のイの(イ)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

#### ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を正確に読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 実際の活動については、「英語コミュニケーションⅢ」の2の(3)のウの(ア)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

#### エ 話すこと [やり取り]

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、課題の解決策などを複数の情報を整理、比較しながら、明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) 実際の活動については、「英語コミュニケーションⅢ」の2の(3)のエの(イ)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

#### オ 話すこと [発表]

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを複数の情報を整理、比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 実際の活動については、「英語コミュニケーションⅢ」の2の(3)のオの(イ)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

#### カ 書くこと

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを複数の情報を整理、比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 実際の活動については、「英語コミュニケーションⅢ」の2の(3)のカの(イ)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

#### ② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②に準ずる。

## 第5節 ディベート・ディスカッションⅠ

### 2 内容

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ① 言語活動に関する事項

##### ア 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的な話題や社会的な話題に関する論題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、論証文や英文資料などを読んで、論点を整理するとともに、それらを活用して自説の優位性を示す情報や考えを詳しく話して伝え合ったり、相手の意見に質問や反論したりするディベートをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) 本活動においては、論証文や英文資料などを読むことになるが、論証文については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)のウの(イ)に準ずる。英文資料とは、海外の**ニュース**や**記事**、英語で書かれた書籍や論文などのことである。これらの資料を活用して、扱う話題についての論点を整理することが大切である。(略)

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理するとともに、それらを活用して情報や自分自身の考えを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝えたり、他者の意見に適切に応じたりするディスカッションをする活動。また、議論した内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) 本活動においては、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりするが、スピーチや講義とは、ALTなどが自分の意見を述べるスピーチを行ったり、関連する話題について生徒の理解を深めるための講義を行ったりすることや、実際のスピーチや講義の映像を視聴したりすることなどが考えられる。英文資料については、**2の(3)のアの(7)**に準ずる。(略)

## 第6節 ディベート・ディスカッションⅡ

### 1 目標

#### (1) 話すこと [やり取り]

ア 社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、聞き手を説得することができるよう、論理的に一貫性のある議論をすることができるようにする。

(略) 複数の資料を的確に活用するとは、課題の解決などに向けて多様な視点から情報や考え、気持ちなどを伝え合う必要があることから、海外の**ニュース**や**新聞**や雑誌、ウェブサイトの**記事**などの多様な**メディア**から収集した複数の資料を比較、分析したり、参考文献や参考資料の引用や参照を的確に行ったりしながら、考えなどをまとめることを示している。

聞き手を説得することができるとは、自らの主張の正当性を証明するために、その裏付けとなる数値や具体例、引用等の複数の資料を、議論の文脈に合わせた的確に活用したり、立論、質問、反論、総括等の場面に応じて、自らの主張の優位性を効果的に表現したりすることで、自説に客観的な説得力をもたせることである。(略)

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、課題の解決策などについて合意形成することができるよう、他者の意見などに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(略) 複数の資料を的確に活用することについては、**1の(1)のア**に準ずる。

課題の解決策などについて合意形成するとは、議論している課題の解決策について、多様な価値観を持つ構成員が、話し合いにより意見を一致させたり妥協点を見出だしたりするなど、集団として意思決定を行うことをいう。

他者の意見などに配慮するとは、自分の意見や主張などを一方的に述べるのではなく、他者の意見を傾聴し、賛同できる点を自分の意見に柔軟に取り入れていくなどの態度を指している。ここでは、自分の視点をもちながらも建設的な意見によって、生産的な議論に寄与できる高い論理性と協働性が求められる。

## 2 内容

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

##### ア 話すこと [やり取り]

(ア) 社会的な話題に関する論題についての複数の論証文や英文資料などを読んで、論点を整理するとともに、それらを活用して自説の優位性を効果的に示したり、相手の議論に応じて、適切な質問や反論をしたりして聞き手を説得するディベートをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) 本活動においては、複数の論証文や英文資料などを読むが、論証文については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)のウの(イ)に準ずる。英文資料については、「**ディベート・ディスカッションⅠ**」の2の(3)の**アの(ア)**に準ずる。ここでは、それらの複数の

資料を収集し、比較、分析、整理する力などが求められる。(略)

実際の活動については、「論理・表現Ⅱ」及び「**論理・表現Ⅲ**」の2の(3)のイの(7)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

(イ) 社会的な話題について、複数のスピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点の共通点や相違点を整理、比較するとともに、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合い、他者の意見に適切に応じて最善の解決策をまとめるためのディスカッションをする活動。また、議論した内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(略) 本活動においては、複数のスピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりするが、スピーチや講義については、「ディベート・ディスカッションⅠ」の2の(3)のアの(イ)に、英文資料については、「**ディベート・ディスカッションⅠ**」の2の(3)のアの(7)にそれぞれ準ずる。(略)

本活動を行うに際しては、生徒に与える複数の資料の中から何を課題として認識し設定するかについて、各グループの主体性に任せて判断させたりすることで、より自律的な活動へと発展させる配慮も大切である。ここでは、課題に関する現状分析、問題提起、解決策の提案・発表に至るまで、最終的にはディスカッションの一連の過程の全てを生徒に任せることも考えられる。

実際の活動については、「論理・表現Ⅱ」及び「**論理・表現Ⅲ**」の2の(3)のイの(イ)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

## 第7節 エッセイライティングⅠ

### 2 内容

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ① 言語活動に関する事項

##### ア 書くこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、ニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 本活動においては、英語の**ニュース**や**新聞記事**などを聞いたり読んだりするが、**ニュース**については、「**英語コミュニケーションⅢ**」の2の(3)のイの(7)に、**新聞記事**については、「**英語コミュニケーションⅡ**」の2の(3)のウの(7)にそれぞれ準ずる。このほか、書籍やインターネットを通して得られる情報なども考えられる。(略)

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) 本活動においては、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりするが、スピーチや講義については、「ディベート・ディスカッションⅠ」の2の(3)のアの(イ)に、英文資料については、「ディベート・ディスカッションⅠ」の2の(3)のアの(7)にそれぞれ準ずる。(略)

## 第8節 エッセイライティングⅡ

### 1 目標

#### (1) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを読み手を引きつけたり説得したりできるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

この目標は、「エッセイライティングⅠ」の1の(1)のア「(略)」を発展させたものである。

複数の資料を的確に活用するとは、多様な観点から情報や考え、気持ちなどを伝え合うために、教科書のほか、海外のニュースや発行されている新聞や雑誌ウェブサイトの記事などの多様なメディアから収集した複数の資料を比較、分析したり、参考文献や参考資料の引用や参照を的確に行ったりしながら、考えなどをまとめることを示している。また、複数の資料の中で使用されている語句や表現のモデルとして正しく使うことも意味している。

読み手を引きつけたり説得したりできるようにするとは、読み手が納得、共感、同意したり深く考えたりするように、論理の構成や展開を様々に工夫することである。

また、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることについては、「論理・表現Ⅱ」の1の(3)のアに準ずる。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、意見や主張などを読み手を引きつけたり説得したりできるよう、幅広い視点から論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。



この目標は、「エッセイライティング I」の1の(1)のイ「(略)」を発展させたものである。

複数の資料を的確に活用することや読み手を引きつけたり説得したりできるようにすることについては、**1の(1)のア**に準ずるが、その際、必要な情報を収集する方法や、得た情報から主張や意見を支えるためのものとして適切なものを選択する力を身に付けさせることが大切である。また、資料から得られた情報や事実を、自分の意見として書くことがないように、適切な引用や参照の仕方を指導することが重要である。

幅広い視点から論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えるとは、複数の資料から得られた知見や様々な情報を整理し、多様な論点を多元的・多角的に分析しながら、エッセイなどの複数の段落構成をもつ文章を書くことを示している。

また、ここでは、課題研究などに関するレポートなどを扱うことも考えられる。そのほか、概要を述べたり、比較、分析したり、自分の主張を述べたりする様々な型のエッセイを書かせることが大切である。

## 2 内容

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

##### イ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、複数のニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして、読み手を引きつけたり説得したりできるように、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) また、ここでは、多様な視点から情報や考え、気持ちなどを伝える必要があることから、海外の**ニュース**や**新聞**や雑誌、ウェブサイトの**記事**などの多様な**メディア**から収集した複数の資料を活用して考えなどをまとめることを示している。こうした複数の資料を収集し、分析、整理するだけではなく、それらを文章を書く上でのモデルとして活用することも意味している。(略)

(イ) 社会的な話題について、複数のスピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、読み手を引きつけたり説得したりできるように、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを複数の情報を整理、比較しながら、効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(略) ここでは、複数の情報を整理、比較した上で多様な視点から、意見や主張を伝え

る必要があることから、公の場で発表されたスピーチや、プレゼンテーションなどを含む講義、インターネットで入手できる英語の情報など、多様な**メディア**から複数の資料を手に入れることを想定している。

明確な論点が示された論理的なエッセイを書くためには、取り扱う話題に関する資料などを参考に、主張したい内容と、それを支える効果的な理由や根拠を考えることが大切である。効果的な理由や根拠として、資料の文章を要約したり、図表などを引用したりして書くことなどが効果的である。その際、適切な引用をするために、学校や地域の図書館などを活用することや、インターネットによる情報の活用の仕方などに触れ、情報を自分で収集して整理することについて指導することが大事である。また、実際に収集した情報の信憑性や、その情報が自分の意見の適切な論拠となっているかどうかを判断する力を育成することも重要である。また、直接引用したり引用符を用いて引用したりする際に、引用する部分が多すぎないか、要約して引用する際には原典と相違がないかなどについても注意する。

実際の活動については、「論理・表現Ⅱ」及び「**論理・表現Ⅲ**」の2の(3)のエの(イ)を参考に、目標に合わせて発展させていくことが必要である。

以 上